

新規事業評価調書

【街路事業】

都市計画道路 尾上小野線（安田）

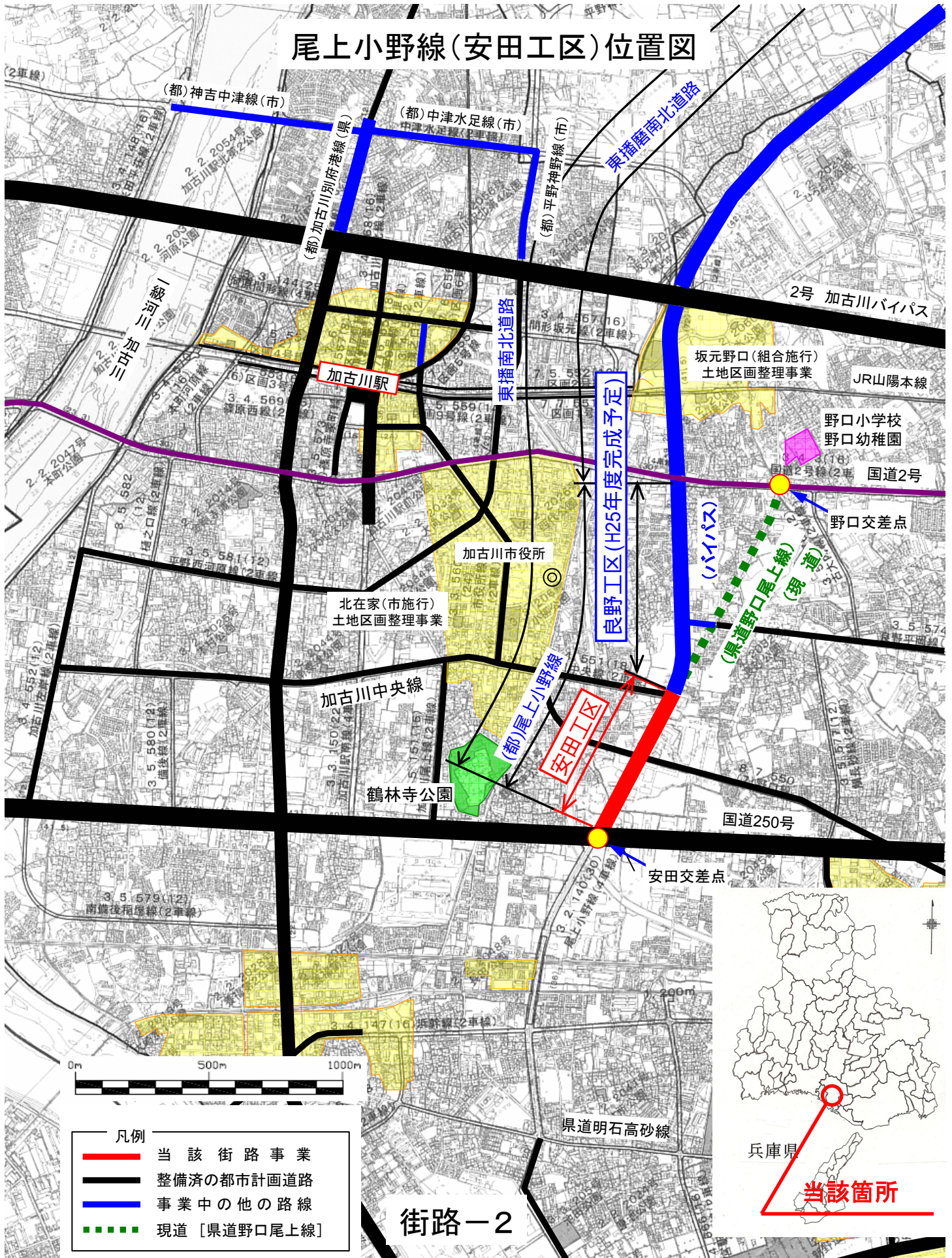
県土整備部

土木局 道路街路課

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	街路担当参事 服部 洋平 (街路係長 細井 将史)	内線	4474 (4480)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内地地補償費	着手予定年度	完了予定年度
街路事業	都市計画道路 おのえ 尾上小野線(安田)	加古川市 ^{おのえ} 尾上町安田 ～野口町良野	約30億円	約25億円	平成26年度	平成31年度
事業目的			事業内容			
<p>○交通渋滞の解消</p> <p>・加古川市は東西軸である国道250号と国道2号を結ぶ南北道路の整備が遅れており、北側の良野工区と一連の事業として、当該工区の現道（県道野口尾上線）の慢性的な交通渋滞を解消する。</p> <p>○広域ネットワークの強化</p> <p>・当該路線は加古川市の国道250号と小野市の国道175号を結ぶ東播南北道路の一部を構成する道路であり、自専道である東播磨南北道路と一体となって、加古川市臨海部と北播磨地域を結ぶ広域ネットワークを強化する。</p>			<p>延長：道路改築 660m</p> <p>道路規格：第4種第1級</p> <p>幅員：4車線 両側自歩道4.0m 車道13.0m（全幅30.0m）</p> <p>計画交通量：21,700台/日（H42年予測） 現況交通量（H22年センサス）</p> <p>自動車：17,396台/日 自転車：942台/12h 歩行者：187人/12h 混雑度：1.35</p> <p>[負担割合 国55%、県22.5%、市22.5%]</p>			
評価視点		評価結果の説明				
(1) 必要性		①現況交通量（1万7千台/日）は2車線の交通容量をオーバーしており、現道は慢性的に混雑（混雑時平均旅行速度13km/hr、渋滞交差点1箇所）している。加えて、北側の良野工区での4車線B Pの供用（平成25年度末予定）により、更なる交通量の増加が見込まれているため、早急に4車線化が必要。				
○交通の円滑化						
○都市の活性化		②加古川市は都市計画道路の整備率が54%と低く（人口10万人以上の都市では県下最下位）、特に市中心部の南北道路では慢性的な混雑により、経済活動や市民生活に多大な時間損失を与えている。市中心部の円滑な交通を確保し、都市活動の活性化を図るため、主要な南北幹線道路である当該区間の早期整備が必要。				
○防災機能の強化		③広域災害時には、耐震岸壁を有する東播磨港と広域防災拠点（三木総合防災公園等）を結ぶ主要な緊急輸送道路としての機能を発揮する。				
○交通安全性の向上		④現道には歩道がなく、自転車、歩行者の安全かつ快適な通行を確保する必要がある。（現道の事故件数 22件/年（H24））				
(2) 有効性・効率性		①費用便益比B/C=2.9				
○執行環境状況		②北側の良野工区は平成25年度末の供用を予定しており、当該工区を早期に整備することにより、路線全体の事業効果の早期発現を図る。				
		③東播磨南北道路とつながることで、加古川市臨海部から県立加古川医療センター（三次救急医療機関・災害拠点病院）へのアクセス性が改善され、地域の医療環境が向上する。				
		④昭和39年3月都市計画決定				
(3) 環境適合性		①広幅員歩道の整備、植樹帯の設置等により、沿道の都市景観が向上する。				
(4) 優先性		①当該路線は東西主要幹線である国道250号まで接続されて初めて事業効果を発揮するため、良野工区に引き続き速やかに整備に着手する必要がある。				
【事後評価】 ○対象・対象外		①当該路線は東播磨南北道路と接続する主要南北幹線道路であり、自専道区間を含めた東播南北道路（国道250号～国道175号）全体として、交通円滑化や都市活性化の効果について、検証を行う。実施時期は東播南北道路が全線完成供用した後に実施する。				

尾上小野線(安田工区)位置図



- 凡例
- 当該街路事業
 - 整備済の都市計画道路
 - 事業中の他の路線
 - - - 現道 [県道野口尾上線]

街路-2



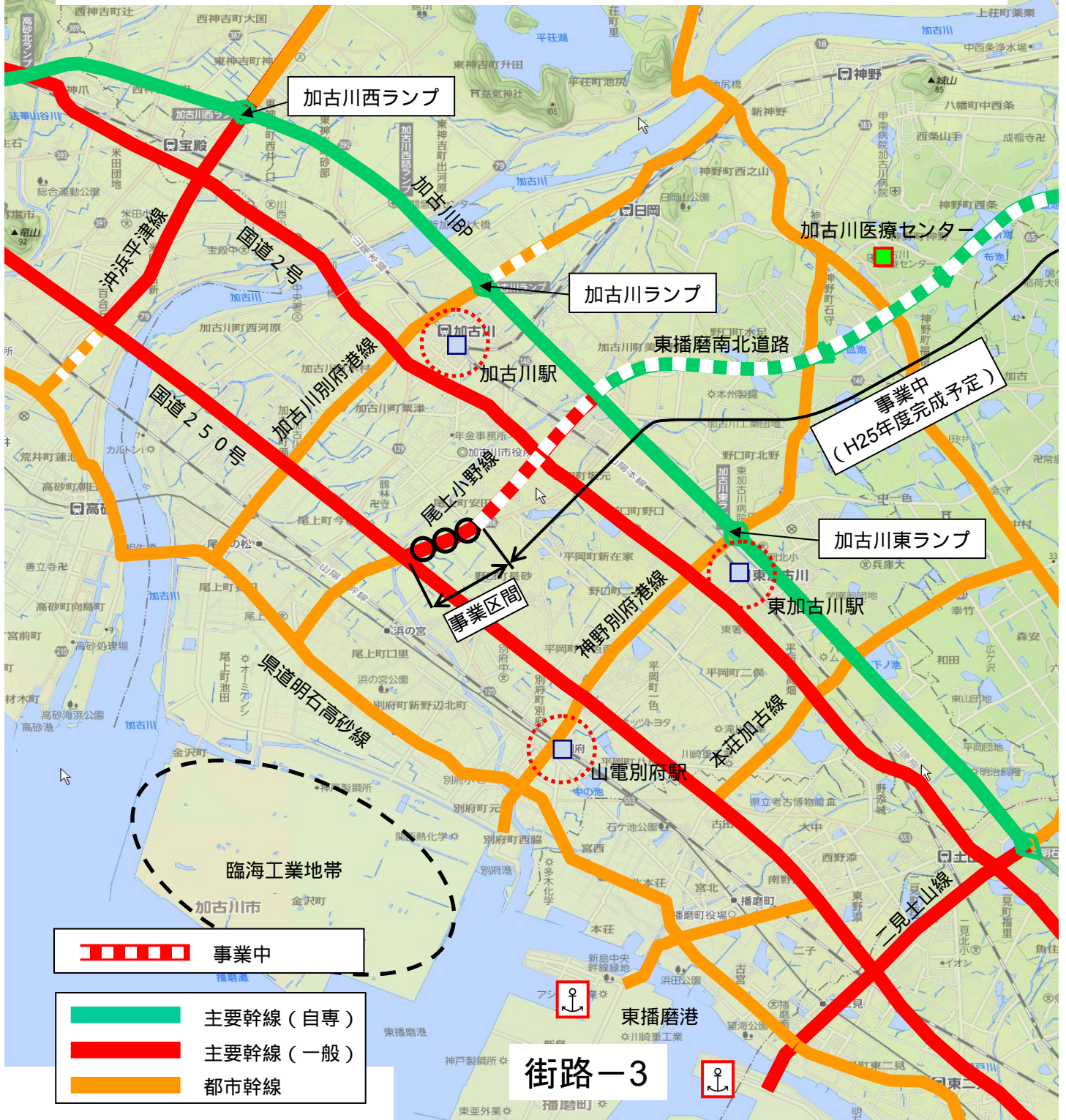
当該箇所

加古川市の道路ネットワーク図

東西主要幹線である国道250号、2号と交差する南北道路で構成される「ラダー状」の道路網の形成

これまで：加古川駅付近連続立体交差事業（H17完了）に合わせ、加古川駅付近の南北軸（加古川別府港線）及び環状道路を重点的に整備

これから：東播磨南北道路による広域連携機能をより高めるため、市中央部の主要南北軸（尾上小野線）を早期に整備



尾上小野線(安田工区)の整備の必要性



〔優先性〕
①隣接工区(良野工区)がH25年度末供用予定

〔必要性〕
①現道(野口尾上線)の慢性的な混雑解消(国道2号~250号)
所要時間: 7.3分→2.4分
②歩行者・自転車の安全確保
死傷事故件数: 22件/年 (H24)

	事故件数
平成22年	9
平成23年	12
平成24年	22

現況交通量: 17,396台/日
歩行者: 187人/12h
自転車: 942台/12h
混雑時平均旅行速度: 13.3km/h
混雑度: 1.35 (H22センサ)

① 野口交差点付近



② 公設市場前交差点付近



③ 安田交差点付近



渋滞状況

公設市場前交差点付近



長砂西交差点付近



歩行者・自転車の通行状況

公設市場前交差点付近

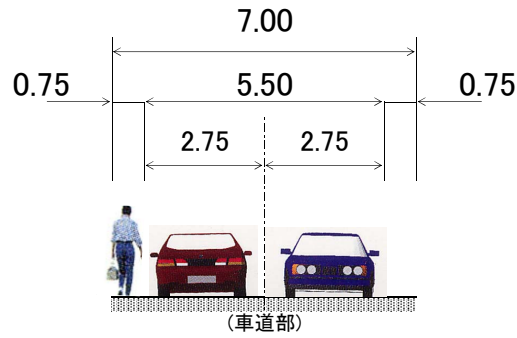


公設市場前交差点より北0.5km付近



尾上小野線 (安田工区)

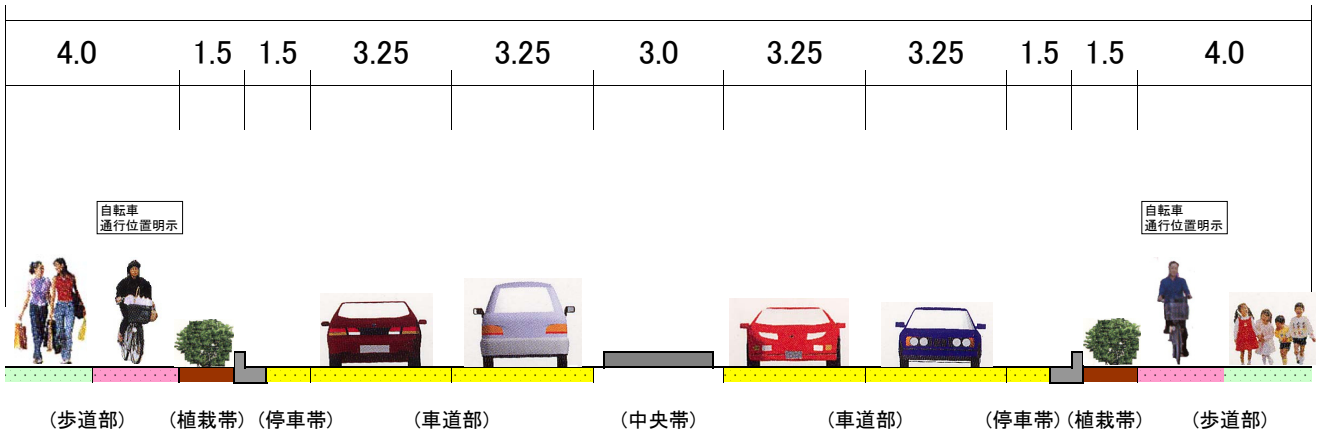
現況横断面図



計画横断面図

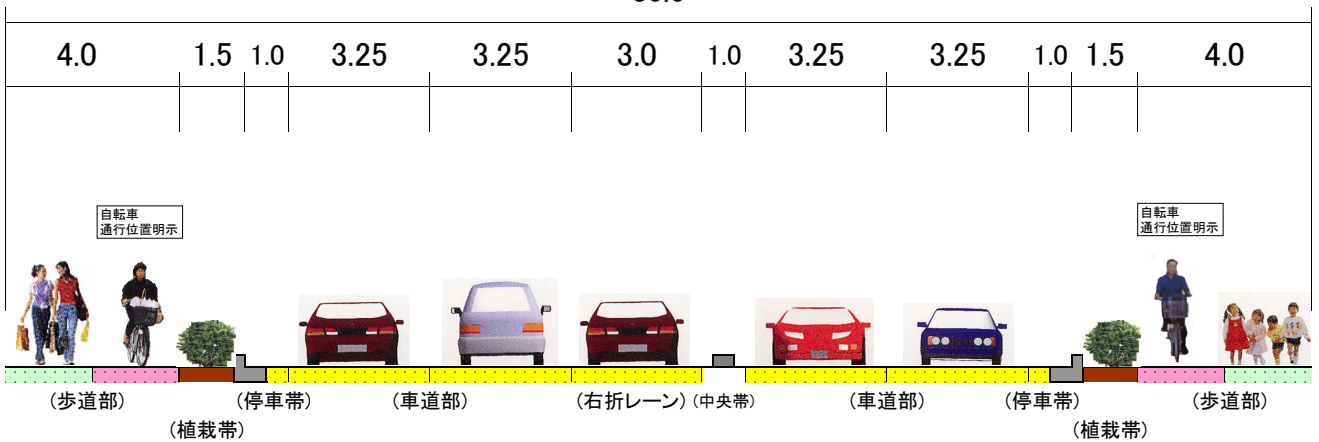
(一般部)

30.0



(交差点部)

30.0



1 実施工程表

工区		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
安田	調査設計		■					
	用地補償			■				
	道路改良工事					■		
良野	H25 供用予定	■						

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益 (B) の項目

事業	B(便益)	算出方法
街路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無し of 走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用; $\sum (\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365 \text{日}$
	② 走行経費減少便益 ○ 走行速度の向上や走行距離の短縮により、燃料費などが節減される便益	整備無し of 走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費; $\sum (\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365 \text{日}$
	③ 交通事故減少便益 ○ 中央分離帯の設置や通過する主要交差点の減少により、交通事故が減少する便益	整備無し of 事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額; $\sum (\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位})$

② 費用便益比 (B/C) 算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
		便益額(億円)			総費用(億円)	事業費(億円)	維持管理費(億円)	
街路	尾上小野線	① 走行時間短縮便益	71.1	時間短縮: 7.3分→2.4分 現況交通量: 17,396台/日 計画交通量: 21,700台/日	26.1	25.3	0.8	2.9
		② 走行経費減少便益	4.4					
		③ 交通事故減少便益	0.7					
		計	76.2					

感度分析 B/C=2.6~3.1(交通量±10%)、2.7~3.2(事業費±10%)、2.8~3.0(事業期間±20%)

(2) 費用対効果に含まれない効果

① 東播磨南北道路と接続することにより、

(災害時) 東播磨港と3次救急医療機関(県立加古川医療センター)、広域防災拠点(三木総合防災公園等)を結ぶ主要な緊急輸送道路としての機能を発揮

(平時) 加古川市臨海部と北播磨地域の地域間交流(物流、観光等)を促進

② 広幅員の歩道の整備による交通安全性の向上

③ 市中心部の円滑な交通を確保し、中心市街地活性化の効果を発現

④ 植樹帯の設置などにより沿道環境を改善

道路・街路事業の効果

対象事業：街路事業（都）尾上小野線

（１）費用対効果

効果項目（費用対効果の便益内容）
走行時間短縮（目的地までの時間短縮）
走行経費減少（走行速度の向上や走行距離の短縮による燃料費の節約など）
交通事故減少

（２）費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 （※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路）	○ 東播磨南北道路との接続により、緊急輸送道路としての機能を発揮
		救助・救援活動の支援 （※災害時の通行不能や孤立集団の解消）	— —
		減災対策への取り組み （※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保）	○ 火災時の延焼遮断帯としての機能確保（W=30m）
	平時	救急医療体制の支援	○ 三次救急医療機関へのアクセス性を改善
		交通安全対策	○ 広幅員の歩道の整備 歩行者と自転車の分離
	②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 東播磨南北道路との接続により、臨海部と北播磨地域の連携を強化
中心市街地の活性化		○ 市中心部の円滑な交通を確保	
地域産業の活性化		○ 東播磨南北道路との接続により、公設地方卸売市場を核とする生鮮食料品などの流通圏域の拡大	
観光支援		— —	
地域プロジェクト等支援		— —	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	— —	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 植樹帯の設置などによる道路景観の向上	